

1 <日本野蚕学会論文（日本語版）作成フォーム>第1版

2 ※以下のことに注意して作成してください。

3 ○原稿は電子ファイルとして受け付けます。

4 ○本文ファイルは Microsoft Word (2013 以降のバージョン)を推奨します。

5 ○テキストは 12 ポイントの「MS 明朝（日本語）」あるいは「Century 推奨
6 （英語）」フォントで作成してください。

7 ○原稿は電子メールで以下に提出してください。

8
9 (提出先) 日本野蚕学会論文誌編集委員会事務局宛

10 E-mail: yasan(at)naro.affrc.go.jp

11
12 (以下、作成フォームです)

13 -----
14 **タイトル（日本語）：論文の作り方と注意点**

15
16 **野蚕 太郎¹⁾・絹 花子²⁾***

17
18 1) 日本野蚕大学, 茨城県野蚕の森市

19 2) シルク工房, 東京都山手区

20 *責任著者: hanako@yasan.or.jp

21
22 **タイトル（英語）：How to prepare an article and points to note**

23
24 Taroh Yasan¹⁾ and Hanako Kinu²⁾*

25 1) Nippon Yasan University, Yasannomori, Ibaraki

26 2) Factory of Silk, Yamanaka-ku, Tokyo

27 * Corresponding author: hanako@yasan.or.jp

30 **Abstract**

31 “International Journal of Wild Silkmoth and Silk” publishes articles
32 concerning various aspects of silk-producing insects (or other organisms)
33 and utilization of their silk. Manuscripts of original scientific reports,
34 technical reports and reviews can be submitted. No manuscript that has
35 been published elsewhere will be accepted for publication. Preliminary
36 research reports of broad general interest may be submitted as ‘Scientific
37 Notes’. Every paper will be peer-reviewed. Criteria for acceptance will be
38 logical description and scientific merit of the contents. (150~200 words)

39
40 **Key Words:** key word 1, key word 2, ...(3~5 語)

42 **摘要**

43 「International Journal of Wild Silkmoth and Silk」は、絹を生産する昆虫
44 (または他の生物) のさまざまな側面とその絹の利用に関する記事を掲載して
45 います。オリジナルの科学レポート、テクニカルレポート、レビューの原稿を
46 提出できます。他の雑誌等で出版された原稿は出版を受け付けません。幅広
47 く関心を惹く予備調査的なレポートも、「研究ノート」として提出することがで
48 きます。すべての論文は査読されます。受け入れの基準として、内容が論理
49 的に説明されており、科学的に有益であることが望まれます。情緒的な表現は
50 できるだけ避けてください。(200~400字程度で記載)

51

52 キーワード：キーワード1、キーワード2、... (3~5語)

53

54 **緒言**

55 研究の背景となる過去の知見等を紹介し、自身の研究との関連性をわかりや
56 すく記載すること。必要に応じて文献等を引用し、特に、ご自身の研究が過去
57 の研究報告にない新規の内容であることを明示してください。

58

59 **材料および方法 (異にする内容は副題を設けて分けて記載してください)**

60 調査に用いた材料と方法を具体的に記載してください。購入や特定の機関か
61 ら入手したものについては、入手元のできる限り具体的な情報を記載してく
62 ださい。特に、方法については、過去の論文等を引用しても構いませんが、別
63 の研究者が客観的に追試を行えるように必要な実験条件などの情報(季節、温
64 度、時間、生体や材料の状態や環境、容量や単位の明示など)を記載してくだ
65 さい。

66

67 **結果および考察 (異にする内容は副題を設けて分けて記載してください)**

68 結果と考察は一項目として作成することも、二つの項目に分けて作成するこ
69 とも可能です。結果と考察を分けて作成する場合は、結果では端的にデータを
70 提示し、考察においてデータへの解釈や過去の知見との違い、有意性等を記載
71 してください。また、考察では結果で述べたことの繰り返しや情緒的な表現は
72 避けるようにしてください。

73

74 **結論**

75 結論を項目として設けることが可能です。

76

77 **謝辞**

78 共著者以外で、論文に関わった方への謝辞を記載することができます。また、
79 研究への支援を受けた場合は支援制度等についても記載することができます。

80

81 **利益相反**

82 論文の内容に関して、利益相反（研究費・特許取得を含む企業との財政的関
83 係、当該株式の保有、雇用関係等）がある場合は、営利目的の企業・団体名と
84 ともにその関係を明記してください。

85

86 引用文献

87 著者名、発行年、論文タイトル、掲載論文、巻、ページ番号（始まり～終り）を
88 必ず記載してください。電子化されたコンテンツの場合は DOI や URL を付け
89 ることを推奨します。

90

91 （ここまで）

92 -----

93

94 （以下、個々の項目に関する注意点を記す）

95

96 原稿作成の手引き

97

98 原稿の規定ページ数

99 ページ数は刷り上がり 10 ページ以内を目安とする。表現が冗長にならないよ
100 うに留意すること。

101 原稿作成

102 原稿の冒頭には、和文の表題、著者名、所属機関、及び責任著者のメールア
103 ドレスを入れる。和文に続いて、英文で対応する内容を記載する。

104 摘要（要旨）の書き方

105 英文（Abstract）：100～200 語程度、和文：200～400 字）で、途中で改行
106 をしないで作成する。本文と切り離してそれだけを読んでも、論文の内容が具
107 体的に分かるように、研究対象、研究方法・装置、結果、結論について簡潔に
108 書く。また、本文中の図・表・文献は引用しない。

109 英文要旨の作成が困難な方は、日本野蚕学会事務局にご相談ください。

110 キーワード

111 キーワードは、論文の内容を代表する重要な用語である。キーワードは、日
112 本語、英語ともに 3～5 語とし、本文を執筆した後に書くのが望ましい。

113 用いる単位

114 単位は、SI 単位を使用する。数学記号・単位記号及び量記号は、半角英数字
115 を使用する。なお、SI 単位については、「JISZ8203 国際単位系（SI）及びそ
116 の使い方」を参照する。

117 用いる記号

118 数学記号は、JISZ8201 に従う。また、量を表す文字記号（量記号）は、JISZ8202
119 に従う。なお、年の表し方については、本年または昨年などとせず、2007 年
120 のように必ず西暦で記述する。

121 図及び写真・表の作成に関して

- 122 (1) 本文中では、図 1、表 1 のように日本語で書く。写真は、図として扱う。
123 (2) 図表の形、大きさは刷り上がりを想定して作成する。
124 (3) 図表番号及びそのキャプションは、図についてはその下に、表について
125 はその上に印刷される。
126 (4) グラフの軸ラベル、単位を明記する。
127 (5) 特に写真は印刷ぼけがないように解像度の高いもの (300dpi 程度以上)
128 を使用する。ただし、添付できるファイルサイズに制限 (約 30Mb) があ
129 ることを考慮する。
130 (6) 図、表及びそれらのキャプションは原稿の最後にまとめて記載する。
131 (7) カラー印刷を必要とするものは、カラー印刷料として刷り上がり 1 ペー
132 ジあたり 10,000 円の追加料金が発生します。

133 引用文献の書き方

134 引用文献は、著者名順 (五十音) にまとめて書く。また、日本語の文献を引
135 用する場合は日本語表記とし、英語の文献を引用する場合は英語表記とする。
136 本文中の引用文献は必ず引用文献一覧に記載すること。また逆も然り。本文中
137 の引用箇所には、著者名と公表年を付ける。例えば、著者 1 名の場合は、赤井
138 (1976)あるいは (赤井, 1976)とする。著者 2 名の場合は、赤井・坪川 (2020)あ
139 るいは(Akai and Tsubokawa, 2020)とする。3 名以上の場合は、赤井ら (2017)
140 あるいは(Akai *et al.*, 2020)のようにする。引用文献の表記は以下を参考に作成
141 すること。同じ著者で同年発行の文献については発行年の後に小文字のアルフ
142 アベット表記を付して区別すること。例えば、赤井 (2000a)あるいは赤井
143 (2000b)のようにする。

144 引用文献 (例)

145 赤井弘 (1976) 昆虫超微形態学. 東京大学出版会, 東京.
146 赤井弘・桧山佳子・中島一豪・杉本星子 (2017) プラチナ繭 アゲマ. *Int. J. Wild*
147 *Silkmoth & Silk* **20**·**21**: 63–87.
148 赤井弘・坪川佳子 (2020) エリサン繭糸の微細構造と特性. *Int. J. Wild*
149 *Silkmoth & Silk* **22**: 55–66.
150 Chattopadhyay D, A. Chakraborty and S. M. Chatterjee (2017) Studies on
151 degumming of eri silk cocoons. *J. Text. Inst.*, **108**: 1327–1339.

152

153 その他

154 略称を用いる場合は、本文の最初に表記された箇所で必ず正式名をまず表記
155 し、その後に略称を付すようにすること。

156 投稿原稿には、査読者が指摘箇所を明示しやすくするため、フッターにペー
157 ジ番号を付すとともに、左余白に行数字 (連続数字) を表示すること。

158

159 以 上

160

161

2021 年 4 月 1 日作成